別記、

労働争議調査方針

全協中央常任委員会　調査部

「争争的労働組合と労働組合反対派との活動に於ける最大の弱点の一つは、斗争経験の研究が不充分なことである。ストライキの後は先日のストライキの後でさえも豊富な材料を提供しているのだが、これは来るべき斗争に於て利用されなければならぬ」「プロフィンテルン支持者は如何なる経済的紛争をも詳細に研究し現われつつある困難を確認し、それらを克服する為の方法を見出すべき任務を有している。……過去の経済斗争に於ける肯定的及び否定的経験の詳細な研究は単にそれのみならず自身の陣営の強化と来るべき労資間の階級斗争に対する全労働階級の準備上重要なる準備を成し遂げ得るのである」（今日の時期のストライキ戦術に関するストラスブルク会議の決議）。我が全国協議会中央常任委員会調査部は昨春以来、主として全国協議会の経済斗争の調査に対して力を注いで来たが、従来の調査は甚だしく不充分なものであった。我々のストライキ戦果、戦術の研究の為には殆ど役立ち得なかった。これは我が調査部の力の不足によることも勿論であるが、各産別組合からの報告の不充分なることも重大なる原因をなしている。経済斗争の研究の重要なることは先にあげたストラスブルク会議の決議を俟つまでもなく組合員同志諸君の充分知らるる所と信ずる。我が全国協議会中央常任委員会調査部は今後各産別組合からの精確なる報告を基礎にし、それと我々の調査を併せて四半期毎にまとめあげ部報の形に於て発表し、以て組合員同志諸君の経済斗争の戦果、戦術の研究の一助に資せんとするものである。各産別組合は一九三二年一月以降に発生せる当該産別組合に関係ある一切の争議に就て別紙「労働争議調査表」に記入の上責任をもって直ちに全協調査部宛に系統的に報告せられ度い。猶今後は一争議毎に直ちに報告せられたい。

「労働争議調査表」記入に関する若干注意

（一）この争議調査表の目的は全協の斗争状態に就て調査せんとするものである。従って全協に関係ある一切のストライキ、工場閉鎖、紛争等に就て洩れなく記入せられ度い

（二）この調査表の最も重要なる部分は争議経過の欄である。ここには争議経過に至る迄の争議参加者（争議団会のみならず資本家官憲、ダラ幹を含む）の活動に就て我々の戦略戦術の研究上必要なるものはなるべく洩れなく記入すべきである。ここに掲げられた諸項目は争議の場合適用せられる行動を例示的に挙げたに過ぎないものであり、これは前項の争議の批判研究の欄に挙げた諸項目と同